

多摩永山中学校だより

編集・発行 校長 佐藤 信雄

<http://schit.net/tama/ihtamanagavama/>

October Sky

校長 佐藤 信雄

夢をもつことは、難しいことでしょうか？
夢をかなえることは、もっと難しいことでしょうか？

今から65年ほど前の頃のお話です。

アメリカの 웨스트バージニア州にコールウッドという田舎の炭鉱町がありました。炭鉱にかかわる多くの人が住んでいました。その中に、炭鉱の現場監督の息子で、ホームーという高校生がいました。

ホームーは勉強が得意ではありません。スポーツも苦手で、兄のようにアメリカンフットボール部に入部して活躍しようとしたのですが、入部テストのタックルで気絶寸前となり、素質なしとして諦めました。「僕は将来、どうなるのだろうか？」ホームーには自分の未来が分かりませんでした。このまま父親の跡を継いで炭鉱で働くことになるのだろうか、ホームーは、漠然とそう思っていました。夜空に輝くあれを見るまでは。

1957（昭和32）年10月4日、ソビエト連邦（今のロシアの前身と言ってよい国です）が人類初の人工衛星、スプートニク1号の打ち上げに成功します。先を越されたアメリカは大きなショックを受けました。ロケット開発、宇宙開発でライバルのソビエト連邦に後れを取るなんて！ それからアメリカは、宇宙開発の分野に大いに資金を投入したり、技術力を高めようとして学校の理系科目（数学や理科ですね）の学習内容を高度にしたりと、慌てて取り組みを拡大し始めることとなりますが、そんなアメリカの後日のドタバタとは関係なく、スプートニク1号は無言で宇宙を飛んでいました。

コールウッドの町の人々は、みんな外に出て、夜空を眺めました。ラジオが、もうじきスプートニク1号を見ることができると伝えます。みんな固唾を飲んで夜空を見つめます。やがて、銀色に光る小さな星が夜空を横切っていくのが見えてきました。小さな光は静かに静かに飛んでいき、やがて彼方へと姿を消しました。大人たちは「ソビエトに先を越されるなんて」「爆弾でも落とす気じゃないだろうな」と暗い顔をしたまま家に入っていきます。しかしホームーは、一人だけ顔を輝かせていました。「僕もロケットを作ろう、あの空に飛ばそう！」

それからホームーは仲間とロケットの作製を始めます。花火を詰めたプラモデルの第1作が木っ端みじんに吹き飛んで以降、多くの失敗を続けます。しかし、高校一の秀才だがとても変わり者だったクエンティンを仲間に入れ、高校のクラスメートたちに笑われながらも、町の大人たちにひそかに助けてもらい、ホームーたちのロケットは空を飛ぶようになります。ある時は山火事の原因として疑われロケットを捨てられたり、ある時は資金集めのため鉄くずを集めていて大けがをしたりしながら、ホームーたちはますますロケットづくりに打ち込み続けます。そして 웨스트バージニア州の科学コンテストを勝ち抜いたホームーたちは、いよいよ全米科学コンテストにエントリーすることとなるのですが……。

ひそかに息子を応援しつつも、ホームーに炭鉱の仕事継いでほしかった父親は複雑な思いで息子を見守ります。石油に押されて少しずつ衰えていく自分の炭鉱の仕事と、時代の先端を行くような息子のロケット作り。この物語は、父と子のある種の対立と成長の物語であり、斜陽化する伝統産業と新興の先端産業の入れ替わりの図式でもあります。そして、夢を見つけてかなえようとする若者の希望と困難、そして応援する多くの大人たちの素朴な喜びの物語でもあります。高校の卒業式を控えて、ホームーたちは最後のロケットの打ち上げに臨みます。町の人々の多くが見物にくる中、父親も少し外れたところからそっと眺めています。その父の手を引いてロケットの前に立たせ、ホームーは言います。「スイッチを入れてほしい。ロケットはボタンを押さないと飛ばないんだ。父さんに押ししてほしいんだ」と。ためらいながら父親は発射ボタンを押します。小さなロケットは煙を残しながら、空の高みを目指して一直線に飛んでいくのでした。その姿は、町の片隅からも、ホームーたちに物理学のテキストを与えて応援したライリー先生の病室の窓からも、はっきりと見えたのです。

その後ホームーたち「ロケットボーイズ」は全員が大学に進みました。炭鉱町コールウッドではとても珍しいケースでした。そしてホームーはNASA（アメリカ航空宇宙局）のスタッフとなり、スペースシャトルの開発と運用にあたる技術者となりました。

ホームーは夢をかなえたのです。あの10月の夜空の彼方に見つけた、小さな夢をかなえたのです。

たまなが3年生、いにしへの都へ

第3学年は9月8日（金）から10日（日）の間、京都・奈良への修学旅行に出かけました。迫りくる台風13号の影響で、新幹線がはたして動いてくれるのか？ 誰もが緊張して前夜を過ごし、8日の朝の永山駅は横殴りの雨でした。それでも濡れながら点呼を終え、新横浜駅を目指しました。新幹線は無事動いていました。そして乗ってしまえば、何と云うことでしょうか、小田原から静岡をよぎるころには雨も止み、京都を目指して一直線でした。

宇治の平等院を見学後は一路奈良公園へ。車中から鹿を見て喜ぶ3年生です。大仏殿と大仏の大きさに圧倒されたのちは予定通り奈良公園での班別行動を楽しみました。そしてホテル杉長のスタッフの皆様がお出迎えの中、急いで夕食、そして室長会へ。あわただしい1日でしたが、無事出発して京都に来られたことを感謝した夜でした。

2日目は京都市内の班別行動です。清水寺や伏見稲荷大社が人気のようでした。この日のお楽しみはもう一つあり、夕食がすき焼き食べ放題でした。今年度ホテルに泊まった修学旅行生の中で、多摩永山中はお肉の一人当たりの平均摂取量が最も多く、栄えある第一位に輝きました。みんな楽しそうに食べてくれていました。

最終日は宿舎からタクシーに乗っての班別行動です。前日とは変わり、金閣寺や北野天満宮などの洛北、洛西が人気のスポットとなりました。京都駅に戻ってきた生徒の皆さんは、ガイドもしてくれた運転手さんとの別れを惜しんでいました。優しい皆さんです。みんなの手には京土産の袋がいくつも下がっていました。

お見送りやお出迎え、荷物の準備など、保護者の皆様には一方ならぬご支援をいただきました。おかげで充実した2泊3日を生徒は過ごせました。心から御礼申し上げます。ありがとうございました。



新横浜から専用列車に乗り込みます



平等院の鳳凰堂。10円硬貨と同じです



かわいい鹿を横目に東大寺へ



大きいですね！大仏殿



大江能楽堂でお能の体験



みんな真剣です！室長会



すき焼き食べ放題！



さようなら、京都タワー



京都駅で解散式。名残惜しい京都に、サヨナラを告げます

躍進する部活動 それ行け！たまなが中生！

敬称略



○野球部（多摩永山中・東愛宕中・青陵中合同チーム）

日南地区秋季大会

9月 2日（土）1回戦 多摩永山中○9-2●稲城市立稲城第二、第六中

9月 9日（土）2回戦 多摩永山中○10-4●多摩市立落合中

9月16日（土）準決勝 多摩永山中●5-6○日野市立三沢中

残念ながら決勝には進めませんでした。新合同チームの頑張った船出でした。

○剣道部

日野市・多摩市・稲城市夏季剣道大会

〈男子団体〉 優勝 見事な結果でした！

先鋒：鈴木 和生（2年） 次鋒：星野 紘希（2年） 中堅：山本 拳心郎（3年）

副将：小林 快有（2年） 大将：明田 悠弥（2年）

1回戦 多摩永山中○-●稲城一中

準決勝 多摩永山中○-●稲城六中

決勝 多摩永山中○-●日野一中

〈男子個人〉 優勝 明田 悠弥（2年）

準優勝 鈴木 和生（2年）

ベスト4 山本 拳心郎（3年）



○ソフトテニス部

第七ブロック日南支部中学校ソフトテニス新人大会個人戦 健闘しました！

9月9日（土）、17日（日）男子：比嘉 輝史（2年）・矢口 鼓太良（1年）ペア ベスト8

9月9日（土）、17日（日）女子：齊藤 遥（2年）・齊藤 空（2年）ペア ベスト8

田中 桃音（2年）・百瀬 栞那（2年）ペア ベスト8

○陸上競技部

多摩市陸上競技記録会 9月16日（土）八王子市上柚木公園陸上競技場

3年男子100m決勝 第3位 山下 路樹（3年）記録 12秒37

この結果、10月7日（土）に開催される東京都支部対抗陸上競技大会の多摩市代表に選出されました。

多摩市と学校からのお知らせ

令和5年度 自己の進路選択のための説明・相談会

不登校及びその傾向のある生徒さんと保護者の皆様はもちろん、そうでない方もご参加いただけます。ご案内のチラシはお子様を通した配布の他、本校のホームページにもアップしています。

1 日 時

令和5年10月20日（金） 午後1時30分から午後4時30分まで

令和5年10月27日（金） 午後2時から午後4時30分まで

2 会 場

多摩市立教育センター 202研修室他

3 対 象

市内公立学校に在学の不登校あるいは不登校傾向にある児童・生徒及び保護者、学校関係者

4 目 的

不登校及びその傾向にある中学生の進路選択に関して、近隣の高等学校や不登校及び不登校傾向にある生徒の受け入れを行っている高等学校を招き、学校生活や入学者選抜についての情報提供を行うことにより、生徒自身の進路選択や各学校の進路指導に資する。

5 内 容

多摩市近隣の高等学校の学校概要、入学に関する説明及び個別相談

6 そ の 他

(1) 詳細は、別紙のチラシ（配布、本校ホームページにアップ済み、LINE配信済み）をご覧ください。

(2) 申込は、参加希望者が直接、別紙チラシの二次元コードから10月4日（水）までに申し込んでください。

(3) 小学校の保護者や不登校傾向にない中学3年生の保護者で希望される方も受け付けています。

オンデマンドでの参加も受け付けています。



図書館へ行こう！ パルテノン多摩、中央図書館編

多摩市子ども被爆地派遣成果報告会 子ども達から平和へのメッセージ

パルテノン多摩では、8月20日（日）～8月27日（日）の間、第32回多摩市平和展（主催 多摩市平和展市民会議/多摩市）が開催されました。その企画の一環として27日（日）午後、「多摩市子ども被爆地派遣成果報告会 子ども達から平和へのメッセージ」が、パルテノン多摩オープンスタジオにて開かれました。

多摩市の小学生2名、中学生4名、平成27年に子ども被爆地派遣員として派遣され、今回はサポーターとして子どもたちにかかわってくださった井上輝愛来さんが、取組みの概要や個人の学びの成果、平和への自身の考えと行動について発表してくれました。ご覧になられた阿部裕行市長はその発表やトークセッションのあまりの立派さから、「さあ、今度は私たち大人が行動を求められています。」とおっしゃいました。それほど真摯で未来志向な発表でした。

その後第2部では、昨年度に派遣員だった本校の稲垣鞠奈さん（2年）と市内高校生のおふたりが、恵泉女学園大学平和紙芝居研究会紙芝居KPKA（クプカ）の皆さんのご指導のもとに、紙芝居『二度と』の上演を通して、平和への祈りを発信してくれました。稲垣さんと高校生はクプカジュニアシスターズとしていろいろな機会活躍してくれています。



安田菜津紀さんによる平和展ポスター



稲垣さんの演じた『二度と…』



ラストは笑顔で「しあわせなら手をたたこう」

平和をつなぐKPKAの歌と紙芝居～平和の語り部になろう！～平和展 closing ステージ

9月2日（土）には、多摩市立中央図書館活動室にて、「平和をつなぐKPKAの歌と紙芝居～平和の語り部になろう！～平和展 closing ステージ」が開催されました。本校からは引き続き稲垣鞠奈さんが『二度と』を上演されました。

今回はアンパンマンの紙芝居や、KPKA代表の山口優里さんの奏でるギターにのせた歌が多く取り上げられ、小さなお子さん連れの方がたくさんご参加されました。本校の学校司書である秋山涼子先生が『へんしーん』を上演なさるなど、各校の学校司書の皆さんもそれぞれ楽しい紙芝居を上演されました。平和展の締めくくりにふさわしい、厳かな中にも楽しい会となりました。ご出演の皆様、ご来場の皆様、ありがとうございました。



秋山先生の『へんしーん』



山口さんのお上手なギターの伴奏



フィナーレ「しあわせなら手をたたこう」

I CAN のバラが咲いています

「I CAN のバラ」とは、被爆者で広島育の育種家・田頭数蔵さんが作った新品種のバラです。2017年にノーベル平和賞を受賞した非政府組織（NGO）の「核兵器廃絶国際キャンペーン（I CAN）」で、国際委員を務めている恵泉女学園大学講師の川崎哲さんに「核廃絶への思い」とともに託され、2020年に多摩市へ、2022年には多摩市立中学校9校に寄贈されました。核廃絶と平和希求への祈りがこめられたバラです。

多摩永山中学校では、来校者入口の右側に植えられています。ちょうど今は秋バラの盛りを迎えています。今はまだ小さな木ですが、次々と花を開かせています。お立ち寄りの際はどうぞご覧ください。

